新宮山彦ぐるーぷ第１９８７回－１

東北地方への遠征(鳥海山・岩木山・八甲田山)登山「鳥海山」

◇実施日；２０１８年０８月２６日(日)～２９日(水)
◇参加者；川島　功、沖﨑吉信、児嶋道夫、大江加予子、徳子、畑林清子、生熊千満子、上村洋司・和美、生駒純子、中前道康・余志子、松本　栄、中西陽子、樋口義也、高階鈴子・美根子、奥村順夫、竹中卓治、三井幹雄、野崎　肇、石橋哲郎・隆子、アラン・モス、椎木　尭・照子。梶野照雄(28～29)。　２７名、
添乗員；和歌山・新日本旅行　中西和子。

８月２６日(日)　山形県天気；曇り雨後雨

沖﨑宅６時前に出発した沖﨑車(中前夫妻・松本・生駒・中西同乗)、大江車(児嶋・畑林・生熊・添乗員中西同乗)は、阿田和ピネで上村車(川島同乗)と合流し、待合せ場所の伊勢道・安濃ＳＡで尾鷲・海山組の奥村車(樋口・高階姉妹・竹中同乗)と合流。
４台で新名神道・名神道を経て中国道・豊中 IC で降りて伊丹空港の南ターミナルに上村・大江車が先着。
しばらく待つが沖﨑・奥村車が着かず携帯電話で連絡すると、程なくして北ターミナルに到着との事。去年の秋田空港への発着は南ターミナルであったが、今回の山形空港への発着は、北ターミナルとのことで南ターミナルに降りた人は、北ターミナルへ移動、駐車場「アサヒ」で車を預けた運転者も戻り、添乗員・中西さんから各自に搭乗券が渡され、手荷物を預ける頃には石橋夫妻、椎木夫妻も到着され、１０時過ぎに三井・野崎氏とアラン・モスさんも到着され全員揃う。
今回、新宮から亀の子会等で山登りされている中前夫妻・松本・生駒・中西さん並びに三井さんが四国８８ヵ所霊場巡りで知り合いになったアラン・モスさんも初参加された。

１１時５０分発(JAL2235便)のため、１１時３０分迄に２２番搭乗口に集合する事にして、各自で昼食を摂る。

北ターミナルで待機

２２番搭乗口・待合椅子で搭乗待機

梶野氏は。見送りに来て下さったのだが、大半の方は食事のために２階出発ロビーに入ったので逢えなかった。
定刻の１１時５０分に離陸、長野県上空通過時には富士山やアルプスの雪渓が望まれたが、山形空港に到着する頃には雨雲に覆われた中での、定刻１３時０５分に山形空港に到着。空港を出ると雨も止み曇り空である。
貸切バスは、奇遇にも昨年トラブルのあった象潟合同バスで車輌も佐藤運転手さんも一緒で、４日間お世話になる事になった。
空港から東北中央道に入り、山形JCTで山形自動車を走行する頃から雨が降り出し、月山付近の道路沿いの山々には濃霧で視界が悪く車窓からの眺めが良くない。鶴岡JCTで日本海東北道に入り酒田ICで降り、最上川と新井田川に挟まれた地の山居倉庫に立寄る。
山居倉庫は、明治２６年に建てられ、米の積出港として賑わった酒田の歴史を今に伝え、ＮＨＫ朝の連続テレビ小説「おしん」のロケ地になった所だそうです。現在も庄内米の保管庫として使われ、その中に庄内米歴史資料館があり、米の歴史と米作りのジ

オラマ等を見学した。

象潟合同バスに荷積む

ケヤキ並木と山居倉庫

米作り仕事のジオラマ

見学後、朝の出発が早いので、近くに在ったスーパー「ヤマザワ」で朝食と昼食を各自調達する。

国道７号線を走行して、宿泊先の鳥海温泉・遊楽里へ。

中西(添乗員)さんから雨天で登れない事を想定して別プランを企画しているので、実施を夕食後までに決めて欲しいとの事。

湯川君の有料山岳気象情報は「午前中降水確率３０％、午後から回復に向う」との情報連絡等により、鳥海山登頂にリベンジする事を決定する。

夕日・天候回復？

夕食「松露の膳」

乾杯！

１８時半から夕食となり沖﨑氏の「明日の天候回復と全員登頂される事を！」の発声で乾杯。

夕食は、前菜・海そうめんのポン酢和え・銀ヒラスの塩麹焼き・スズキの天麩羅・牛肉陶板焼き・変わりむきそば・白飯・お吸い物・遊楽里自家製漬け、フルーツの「松露の膳」。

明日、鳥海山へは４時起床、５時出発のため、２０時半に終宴とした。

夕食の懇親・懇談

行動タイム

新宮5:50→阿田和・ピネ6:05→紀勢・大内山IC7:05→8:00安濃SA8:20→9:15中国道・豊中IC→9:25伊丹空港11:50→JAL2235→13:05山形空港13:30→15:00酒田IC→15:10山居倉庫16:25→17:00鳥海温泉・遊楽里(宿泊)。

「鳥海山」８月２７日(月)　薄曇り時々晴

朝起きてまず天候を確認すると雨もあがり、薄曇の空模様であり、昨日まで雨を降らせた秋雨前線が想定より南下した様だ。

遊楽里を５時前に出発、鳥海ブルーラインから日本海も望まれ雲の合間から青空も望まれる。象潟口登山口(五合目)鉾立駐車場(1150m)に５時半に到着、気温１２℃。身支度とトイレ休憩の間に、夫々が膝の屈伸等の準備体操をして貰う。

５合目鉾立駐車場で夫々が登山準備

象潟口の登山口

先頭は、熊野古道・伊勢路の語り部としてご活躍の樋口さんに、シンガリは、沖﨑氏にお願いした。

５時４５分に登山口を出発、舗装登山道を約２０分登ると展望台がある。奈曾渓谷が一望されるが、山頂は雲に覆われていて、前回と同じ様な空模様であるが、今日は風が弱い。

木道を過ぎ石段の道を登り出すと、前方尾根に何か白い物が沸き立っている、朝霧だろうと思ったが違う・・・約２０分歩くと登山道脇の水パイプから高さ８～１０ｍの水煙の水漏れであり、傍を通過する間にびしょ濡れになる。

手入れされた石畳の尾根登山道を辿り、チシマザサ(根曲がり竹)を刈り開いた尾根斜面下へと辿り、賽の河原(６合目;1520m)手前で小休止。周りにはニッコウキスゲ、チョウカイアザミ、白いウウメバチソウ等の高山植物が咲いていて、イワイチョウが黄色く色づいていた。

石畳道を再び登り切り緩やかに登山道を辿り、御浜神社の鳥居をくぐって７合目・御浜小屋(1700m)に７時４５分に到着。

水パイプの水煙

尾根登山道で小休止

賽の河原直前で小休止

御浜神社鳥居をくぐる

御浜小屋下のお花畑

御浜小屋上の尾根

御浜小屋とトイレ建屋の間から縦走尾根に出られる様になっていた。去年は、此処で強風のため撤退したが、今日はガスの切れ間から鳥海湖がうっすら見えるがやはり山頂は見えない。

御浜小屋から緩やかな所々溶岩露出の尾根を登りきると扇子森

(1759m)で、上部はなだらかで御田ヶ原と呼ばれている。雲が無くなり鳥海山が望める様になる。緩やかに下った鞍部は御田ヶ原分岐(山頂3.2km、御浜0.8km)である。

鳥海山が望める

なだらかな御田ヶ原

八丁坂と外輪山からの山頂

ここからの登りは、八丁坂で登りきると七五三掛(しめかけ1820m)。ここの石祠に熊野修験の碑伝(H28)が奉納されていた。

以前は、ここから千蛇谷コース分岐であったが、登山道の崩落により５０ｍ上の分岐になったが、ここも通れなくなり、現在は２００ｍ上に、千蛇谷コースと外輪山コースの分岐がある。

七五三掛の標柱

七五三掛で小休止

千蛇谷への下り斜面

千蛇谷コースへと進むと斜面の登山道は、積雪時の斜面の登山道確保の為に、両脇に3本の丸太が積まれた(約50㎝弱)道を辿る。

現在の千蛇谷分岐からは、ジグザグに旧千蛇谷コースまで下り、支尾根を捲いて急な外輪山内の急斜面を下り、雪渓の上を歩いて渡り、新山ドームから張り出した尾根下に登る。奥村君は、少し遅れて雪渓へと下っているので、此処でしばらく待機する。

千蛇谷の雪渓を渡る

外輪山の溶岩登山道

これより谷沿いに登って高度をかせぎ、支谷を横切り、外輪山急斜面の溶岩の登山道をジグザグの登りきると、鳥海山大物忌神社の鳥居がある。風除け石垣の間を通り抜けると、大物忌神社御本社・社務所と御室小屋がある。

鳥海山大物忌神社の鳥居　大物忌神社社務所(左)・御本社と御室小屋(右)

早く到着した上村洋・アランさんだけは、直ぐに新山山頂へ。参拝を済ませ着いた方から昼食。

児嶋カフェー開店で、奥村氏はコーヒー用の水500mlを担いだので、神社まで登らなければならないと頑張ったが、外輪山直下で沖﨑氏が奥村君のザックを担いで登って来て、１１時２０分頃に鳥海山大物忌神社に全員が到着。

神社鳥居傍で昼食

鳥居で記念撮影

樋口氏は、神社に荷物をデポし戻ってから外輪山コースに登る。それ以外は、荷を担いで山頂を踏んでから、外輪山コースに行く事ことにする。

新山溶岩ドーム

溶岩岩山の登り

急峻なルンゼ下降

溶岩の岩山は、ストックを収納しペンキマークに導かれて、両手両足を使って忠実に登り、一旦急峻なルンゼを下降して、再度、岩山を登ったところが鳥海山新山の山頂(２２３６ｍ)で、４～５人しか立てない。尚、岩が濡れると登るのは難儀するだろう。

鳥海山・新山山頂

眼前の七高山(2229m)

外輪山へと下降

胎内くぐり

急峻な斜面を下降

御室小屋分岐から下る

帰路は、外輪山コースへと下り、胎内くぐりを抜けると程なく小さい溶岩の急斜面をトラバースしてから下り、御室小屋への分岐(樋口氏合流)を過ぎ、最低部の谷を横切り、外輪山への急峻な溶岩岩山をジグザク登り、外輪山尾根へ１３時１０分に到着。

ここには、山頂0.5km、御室小屋0.4kmの標識がある。
此処から帰路の所要時間を勘案すると、ゆっくりしていると18時頃になりそうであり、小休止を少なくする必要があり、揃ったところで出発。奥村君は先頭付近を歩かすことにする。尚、七高山の三角点は、近いが時間がかかり過ぎているのでカットする。

外輪山コース尾根へ

新山山頂と御室小屋

これから辿る外輪山

なだらかな尾根を下り、尾根左下を通り、しばらく歩くと尾根鞍部にパイプ梯子がある。以前は御室小屋からここに至る登山道が在ったとのこと。梯子を登ると直ぐに行者岳(2159m)である。

新山山頂と千蛇谷源流

伏拝岳

山頂から辿った外輪山

薄曇の天候なので外輪山コースからの眺望もあり、大パノラマを堪能しながら外輪山尾根を下る。伏拝岳は、河合宿への分岐になっている。鳥海山と外輪山の眺望が最後になる文殊岳で小休止。
文殊岳を過ぎると尾根道は、ハイマツや色づき始めたナナカマドが見られる様になるが、急峻な下りとなり右手側は外輪山の絶壁が足下に見える所もあるので慎重に下る。

文殊岳(2005m)

ハイマツ尾根を下る

御浜小屋への尾根と鳥海湖

千蛇谷分岐、七五三掛を過ぎ、帰路最大登りになる御田ヶ原には、ゆっくり登って小休止。
御田ヶ原からしばらく下ると御浜小屋が見え、小屋上の尾根でトイレ休憩等最後の休憩とする。
石橋さんは、膝の調子が良くないとの事。御浜小屋を15時45分に下山。
賽の河原過ぎた地点で小休止したが、川島が飲める水を捜しに少し下ると言ったが、水を直す、即ち「パイプの水漏に下る」と伝わった様で、それではと専門技術のある野崎さんが水漏れパイプを修理すると先行下山されたので、修理を見学すると後に続いて下山。水漏れ箇所は既に修復されていた。
鉾立駐車場には先着者は17時20分に着き、最後尾は17時45分に到着。

２６名全員が、所要時間１２時間歩いて鳥海山へ登頂し、無事下山したことは快挙と言える。

御浜小屋への下り

御浜小屋に戻る

鉾立駐車場に下山

無事下山の記念写真を撮り、１７時５５分に鉾立駐車場を出発。鳥海山登頂を祝ってか・・・飲める方にビールが配られ。乾いた喉を潤すと共にリベンジ登頂成功に安堵する。さすがに疲れもあり静かな車内となる。

バスは、日本海東北道の象潟ICに入り、河辺JCTで秋田道を走行して一回トイレ休憩。二ツ井白神ICで降りて、国道７号線に入り大館駅前の宿泊先グランドパークホテル大館に２０時５０分到着。風呂に入り、夕食は各自で行い就寝した。

行動タイム

鳥海温泉・遊楽里4:55→5:30鉾立駐車場5:45→6:00展望台→6:20パイプ水漏れ箇所→7:10賽の河原→7:45御浜小屋7:55→8:15扇子森(御田ヶ原)→8:30御田ヶ原分岐→8:50七五三掛9:00→9:10千蛇谷分岐→9:25雪渓渡る→10:00頂上⑥→10:30頂上⑧→11:00鳥海山大物忌神社(昼食)12:00→12:20鳥海山・新山12:40→12:55御室小屋分岐→13:10外輪山尾根13:20→13:40行者岳→13:45伏拝岳→14:10文殊岳14:20→14:40千蛇谷分岐→14:47七五三掛→15:05御田ヶ原分岐→15:20扇子森(御田ヶ原)→15:30 御浜小屋15:45→16:20賽の河原→17:13展望台→17:20鉾立駐車場17:55→20:50グランドパークホテル大館(宿泊)。

（記；川島、写真；野崎・大江徳・川島）